



会津農林事務所農業振興普及部だより

Vol. 265(平成29年12月12日発行)

編集・発行■会津農林事務所農業振興普及部	農業振興課	0242-29-5303
住 所■〒963-8501	地域農業推進課	29-5306
会津若松市追手町7-5	経営支援課	29-5307
H P ■www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36240 a /	有機農業担当	29-5317

会津で“認証GAP” 進行中！



GAP検討会の様子

県では安全で高品質な農産物の生産による風評払拭に向けて、農業者・農業法人・出荷団体等の皆様の認証GAPの取得に向けた取組を支援しています。

認証GAPには、GLOBALG.A.P.、ASIA GAP、JGAP、ふくしま県GA

P (FGAP) がありますが、どのGAPの認証を目指すかは、取り組まれる農業者の方々の販売先や経営理念によります。

いずれのGAPについても、実践することで、農産物の安全性確保や品質向上など、産地の信頼につながるほか、生産コストが削減される、農作業事故を防げるなど経営の合理化や経営継承もしやすくなるなどのメリットがあります。

会津若松地域では、昨年度までに第三者認証GAPに取り組んでいる農業者等が2件、今年度から新たに補助事業を活用して8件の農業者等が米、トマト、リンゴ、カキ、しいたけ等で取り組んでいます(10月末現在)。

GAPは、生産部会や直売所、個人など、様々な単位で取組むことができます。認証取得には費用が発生しますが、県では助成事業を設けていますので、関心のある方は下記までお問い合わせください。

【問合せ先】 GAPに関する問合せ：農業振興普及部経営支援課 (29-5307)
補助事業に関する問合せ：農業振興普及部農業振興課 (29-5302)

GAP取組事例 ～JA会津よつば猪苗代稲作部会～

JA会津よつば猪苗代稲作部会では、平成32年東京オリンピック・パラリンピックへのブランド米「いなわしろ天のつぶ」の食材供給に向けて、GAP認証取得に取り組んでいます。

部会では、生産者認証制度や独自の厳格な栽培基準による生産を行い、国内販売はもとより、輸出を展開する中で、GAPに取り組む必要性を認識し、昨年からの検討を進め、今年9月には、部会内にGAP班を設立し、現在、認証取得に向けた管理マニュアル等の作成を進めています。

農場管理マニュアル作成では、安全性確認やリスク評価を行っていますが、作業手順や健康管理などで、これまで気づけなかったリスクが

あることが分かりました。今後、より良い農場づくりを実践しながら、GAP取得と世界に通用するブランドの確立を目指しています。



農場管理マニュアル作成に向けた協議

「ふくしまアグリノベーション実証事業」刈取現地見学会の開催

平成29年10月20日（金）、猪苗代町において、100ha規模の大規模経営体の育成に向け「ICT技術」等の先端技術を活用した経営モデルの構築を目的とした表記事業の現地見学会を開催しました。

はじめに、同町農村環境改善センターで、県より実証事業の取組等の概要を紹介するとともに、ヤンマーアグリジャパン（株）の戸堀勝俊氏から、実証にあたり導入した情報支援機能や最新の各種技術について説明いただきました。

その後、現地へ移動し、密苗や可変施肥を導入した水稻の生育状況と、刈取ほ場の収穫量がその場でわかる「インテリジェントコンバイン」を見学しました。

今後は、1筆ごとの収量データや作業時間、生産費などを整理し、猪苗代地域における大規模経営体（メガファーム）の実証実績をとりまとめ、2月に開催する実績報告会でお知らせしたいと考えておりますので、報告会へぜひ御参加ください。



実証に導入した技術の講演



実証ほでの見学会の様子

～紹介した各種技術～

- スマートアシストリモート営農支援システム
- 密苗
- ドローンによるリモートセンシング
- 生育と施肥量マップ作成
- 無人ヘリによる可変施肥
- インテリジェントコンバイン（収量コンバイン）

獣害に強い集落づくりを進めませんか？

野生動物による農産物被害は、年々増加傾向にあり、集落での大きな問題となっています。
あなたの集落では野生動物の対策は進んでいますか？

なぜ、野生動物による被害が拡大するのか？

- ・ 耕作放棄地が増加、里山の管理が行き届かない。
→ 動物が隠れる場所が増えるため、近くの田畑や民家まで近づきやすくなっています。
- ・ 未収穫の果実や野菜などが放置されている。
→ 動物にとっては貴重な食料。
味を覚えてしまうと、栽培されている作物も加害するようになります。

個人での被害対策は限界・・・

- ・ 個人単位での電気柵設置
→ 個人での対応は資金や労力面で限度があるため、対応できる面積や管理が限られます。

取組は、集落ぐるみで！

- ・ 集落全員が出没原因を正しく理解・認識し、集落の実情に合う適切な対策の実施が効果的です。
→ 集落全員で取組むことで、土地境界にとらわれずに効果的な防護柵を設置することができます。
→ 柵の設置費用、設置・維持管理の労力が軽減されます。

～ まずは、集落で話し合いを行ってみませんか！ ～

お気軽に、農業振興普及部経営支援課（電話：29-5307）または各市町にご相談ください。



進んでいます！集落営農！！～法人設立の事例～

○会津若松市堰場(せきば)集落

堰場集落は、会津若松市湊地区でも最南部に位置し、水稻やそばを主体とした農地約32haを有する集落です。農作業受託組織「堰場生産組合」が集落全体の農業生産を進めているほか、多面的機能直接支払制度に取り組んでいます。

当集落では、県営農地整備事業（平成29年度採択、同34年度完了予定）を契機に、担い手の明確化、農地利用集積、経営管理の合理化等に向けて、集落担い手7名を中心に集落内で話し合いを重ねてきました。話し合い等には土地改良区、市、県農業会議、県農業振興公社及び当部も関わりながら随時支援してきました。その結果、今年9月に集落全戸（15戸）を構成員とした「農事組合法人 堰場ファーム里山」が設立されました。農地は、農地中間管理事業による貸借契約で、他集落への出作分を含む29haを契約しています。経営品目は、当面、水稻、そばを主体としますが、今後は加工・販売・貯蔵部門を設置して地域産業6次化を目指すほか、大豆や園芸品目の導入も検討されており、今後の経営発展が期待されています。

また、磐梯町落合集落においても、今年4月に特定農業団体（将来法人経営を目指す生産組織）からステップアップした農事組合法人が設立されています。

皆さんの集落では、今後の営農について話し合いを進めていますか？

「人・農地プランを作りたい」、「人・農地プランの中心的経営体なので認定農業者や法人になりたい」、「米政策の変革を控え、集落の農業をどうしよう？」など、集落の皆さんで話し合う機会を作ってみませんか？

農業振興普及部地域農業推進課では、集落営農の話し合いを支援しています。まずは、お気軽にお問い合わせ（電話：29-5306）ください！



法人化に向けた集落での話し合い

頑張る新規就農者

会津若松地域では多くの若手農業者が活躍しています。その中で、今回は新たに就農した2組の農業者の取組を紹介します。

●高木裕哉氏・茜氏御夫妻（会津若松市北会津町） 水耕栽培（リーフレタス）



高木夫妻は、今年就農し、リーフレタスの水耕栽培に取り組んでいます。付加価値の高い品種を選定し、安定した収益の確保を目指しています。裕哉氏は北会津町の農業者の家に生まれ、大学に進学する頃から就農を考えていたそうです。

まだ、販路の確保や価格の交渉に苦労していますが、将来は「会津地域における水耕栽培のモデル農家になること」を目指しています。

●手代木亜久里氏（会津若松市北会津町） 花き（トルコギキョウ等）＋水稻



亜久里氏は、トルコギキョウを大規模に栽培している親元で就農しました。就農のきっかけは、幼少の頃から御両親が花きを栽培している姿を見て、自分も花を作りたいと思ったことだそうです。東京の花き市場で研修後、地元に戻りました。

現在は花作りを勉強中。慣れない作業も多くなか、1日も早く、確かな技術を身につけることを目指しています。

「猪苗代町営磐梯山牧場」の放牧再開

猪苗代町営磐梯山牧場は平成24年から昨年度まで放射性物質対策に取組み、昨年度の検査で安全性が確認できたことから、平成29年6月23日に晴れて放牧再開となりました。

今年度は、合計17頭（乳牛9頭、肉用牛8頭）が放牧されました（10月末閉牧）。

放牧再開当初は、牛も環境の変化に戸惑っていましたが、1ヶ月を経過すると放牧地で寝そべったり、自由に歩き回るなど、ストレスもなく快適に過ごす様子が見られました。

磐梯山牧場では、放牧牛の健康維持、安全確保に努め、定期的な衛生検査、巡回確認、電気柵による鳥獣の侵入防止などの対策に、関係機関と連携して取り組みました。

放牧した農家からは「育成にかかる手間が軽



減された」、「足腰が強く、体つきの良い牛になった」など放牧による育成コスト軽減や、強健性の向上などの声が聞かれました。

次年度も、放牧予定ですので、畜産農家のみなさん、ぜひ、放牧を検討してはいかがでしょうか？

降雪対策は万全に！！

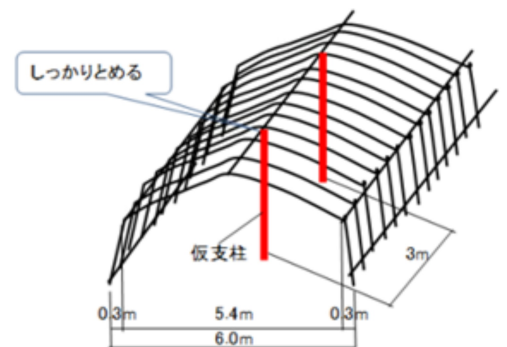
仙台管区气象台が発表した寒候期予報によると、今冬の平均気温は平年並か高く、積雪量は平年並の見込です。本格的な降雪に備えて対策を徹底し、農業用施設等の被害を未然に防ぎましょう。

1 施設園芸

- ・冬期間使用しないハウスのビニールは、事前に撤去する
- ・屋根の雪の滑落促進のため、突出物を除去する
- ・パイプハウスの補強対策として、仮支柱などを設置する
- ・除雪機をいつでも使えるように整備しておく

2 果樹

- ・樹体や果樹棚への着雪が多い場合は、速やかに雪下ろしを行う
- ・主枝や亜主枝には支柱を添え、折損を防ぐ



出典：平成26年2月の大雪被害における施設

園芸の被害要因と対策指針

※作業を行う際は、十分に安全を確保しましょう※

「トルコギキョウ振興セミナー」を開催します！

トルコギキョウの栽培技術、新資材への理解を深め、高品質な花の安定生産及び新規栽培者の確保を目指し、セミナーを開催します。奮って、ご参加ください。

○時期 平成30年2月上旬（決定後、再度お知らせします。）

○場所 福島県農業共済組合会津支所 大会議室（湯川村大字桜町字森台77番地）

○内容 （1）基調講演「中山間地での高品質なトルコギキョウ栽培に向けて（仮題）」
講師：元（株）サカタのタネ 久保田 芳久氏

（2）技術実証ほ試験報告

（3）メーカーからの資材紹介

○主催 会津農林事務所 他

詳細は、農業振興普及部経営支援課（電話：29-5307）までお問い合わせください。